



事務所訪問

税理士法人グッドパートナーズ会計事務所

質を追求するために 税理士法人化を目指した!!

昨年10月、税理士法人化したばかりのグッドパートナーズ会計事務所。高橋和宏先生が法人化を志向したのは顧問先への責任感からでした。その結果、荻谷悦利先生という最良のパートナーを得ることができ、事務所は将来を見据えた組織に。今後の願いは岐阜の元気企業を育てるという目標を達成することです。

PROFILE



所在地/岐阜県岐阜市市橋3-13-15
TEL/058-275-7788
FAX/058-275-7785
設立/03年10月
職員数/14名
導入システム/ACELINK

税理士法人化で 将来の不安を解決

「税理士法人にして3カ月余り。個人事務所という意識はまったくなくなりました。とても安心感がある。個人事務所のままでは、この先何年かと考えるととても不安でしたね」と、しみじみ語る高橋

和宏先生。高橋先生と一緒にやることを決意した荻谷悦利先生も「税理士会の例会に顔を出すと、よくやったねといわれます。それが励みになる」と。

そもそも、ふたりは同じ悩みを相談しあう仲でした。地元の税理士たちの勉強会で知り合い、この10年来、事務所の将来について話し合ってきた

ました。

「税法が目まぐるしく変わるなか、ふたりともひとりです」

「個人事業主はいつ病気になるか、ふたり死ねかわからない。私も病気になるたら仕事が途切れてしまうのではないかと不安がつねにあった」

(高橋先生)

そして「税法の改正が頻繁。昔は税法が変わっても幹をたどれば枝葉が想像できるものだった。しかし、いまの税法改正は予期せぬ方向に変わる。個人事務所ではとてもついていけない。そんな矢先、税理士法人の設立が認められるようになり、これならふたりが抱えている問題を解決できるとわかったんです」

(高橋先生)

「荻谷先生は社交的。私は机に向かう方が好き。だから、互いに補い合える関係にあるんです。また、同い年で事務所規模も同程度と合併しやすかった」

上場企業の顧問先も法人化を歓迎

ふたりの顧問先を合わせると200件。地元では大きな事務所になりました。しかし、ふたりは支店展開など規模の拡大は考えていないと。

「マンモス事務所にする気はないんです。お客様の顔がわかる規模がいい。これからもっと深く付き合っただけで量より質を追求したい」と高橋先生。

顧問先も法人化を歓迎してくれました。

「法人化の目的のひとつである事業継承に理解を示していただき、経理などのアウトソーシングの依頼が増えました。また、上場した顧問先からも、組織としての対応力を期待され法人化してよかったです」

(荻谷先生)

戦力も強化されました。現在、荻谷先生の同級生で、長く名古屋の会計事務所勤務していた小原義光先生が加わり、税理士が3人になりました。毎朝、3人は始業前の午前8時に出社し、1時間、

打ち合わせをするようにしています。

「むずかしい案件に対しても3人の税理士がいることで『文殊の知恵』がわいたり、違う見方や発見ができることもしばしば。今後はそれぞれが法人税、資産税など役割分担をしていきたい」と高橋先生。

課題は将来の後継者の育成です。

「この事務所将来の後継者を育てたい。10歳下の年代を後継者として考えています。この春に税理士をめざす人が入社予定です。ぜひ、有資格者に育てあげてみたい」

岐阜発の元気企業を育てるのが夢

さて、将来への備えができたところで、高橋先生の目標は、岐阜発の元気企業を1社でも多く輩出すること。そのため、中小企業診断士の資格を活かし、週1回、地域の中

小企業支援センターで無料の経営相談を行っています。その経験から、このままで、



右から荻谷先生、高橋先生、小原先生

中小企業の未来に前途はあるのか、と。

「私みるところ、他社との差別化に成功している企業、経営者が常に先を見て考えている企業、人を育てている企業、これが、いま生き残れる企業です」とキッパリ。

「たとえば、顧問先の社員30人ほどの会社の社長ですが、社員の性格をすべて把握しています。聞けば、まず、従業員を好きになることから始めるそうです。すると、営業の数字を見ただけで従業員の気持ちの変化を読み取る

ことができ、適確な指導ができるようになると思います。こうした会社は不況に関係なく伸びている」と。また、斜陽化をたどる地場産業も経営者次第だと。「あるアパレル産業の経営者は、下請がいや

がる複雑な縫製を一手に引き受けて成功した」そうです。面倒で手におえない仕事に特化したのが「勝ち組」になった理由と先生は分析。大半の中小企業経営者には、この粘りが無い、と。

「打てる手は全部打つたと思いついていないのが問題。実はやっていないことが多いんです。結果として資金繰りに追われる、先が見られない、全体を見渡せない、となるんです。資金繰りがストップしてしまえばすべてはおしまい。だから、なりふりかまわず死に物狂いでやりなさいと言うことも。その間に私は、金融機関に交渉の余地があるのかないのかなど行動に移

す。ここまで来て、ようやく大変な事態になったと気づく例が多い。それを弱点と思つて克服してほしいものです」と先生。つねに顧問先を叱咤激励。

顧問先それぞれの幸せを追求したい

MJSとの付き合いは長く、昨年にはACELINKを導入しました。

「ウインドウズに対応して、だんだんシステム環境がオープンになってきてうれしい。いろいろファイルが交換できるので、おもしろく使っています。たとえば、ACELINKで取り出した財務諸表をエクセルに貼り付けて事務所オリジナルの資料に

して顧問先に持っていきます」と高橋先生。

なお、今年はいよいよ電子申告時代に。いちはやく2月から、事務所のある名古屋国税局管内で電子申告が始まります。

「税理士会としては推進しています。しかし、顧問先には不安があるし、税理士にとってもまだ手探りの状態です。先を見れば、それがあたりまえになるのかもしれない」と。つねに顧問先にとって何がベストなのが頭にあります。

事務所の理念は、「『しあわせ』を考えます。」

「私たちはなぜ、この仕事をしているのか。突き詰めればお客様に幸せになってほしいからです。そして、幸せの形はお客様によって違う。私たちは、それぞれの人の心を何よりも尊重したい」と高橋先生。

税理士法人としてスタートを切り、未来に戦略を描けるようになったグッドパートナーズ会計事務所。ますますのご発展をお祈りいたします。



オフィスレイアウトも自由自在で総勢14人が働く事務所になった



昨年、新築したオフィスは3階建。天井が吹き抜けになっている

